

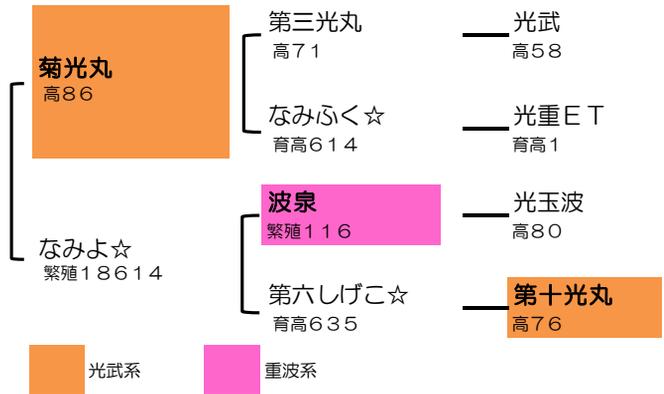
熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2024

きくなみいずみイーター

褐毛和種種雄牛「菊波泉ET」の選抜



問 研究のねらいは？

答 熊本県で昔から多く飼われている褐毛和種について、その牛肉の生産性・品質向上を図るため、優秀な種雄牛を選抜しました。

問 本牛の特徴は？

答 本牛は、当時、ロース芯面積、ばらの厚さ、皮下脂肪の厚さ、歩留基準値、脂肪交雑の育種価が県内上位10%以内の母牛に、質量を兼ね備えた「菊光丸」を交配し、作出しました。現場後代検定では、枝肉重量の全体平均が500kgを超え、育種価評価における歴代順位は枝肉重量およびロース芯面積で第2位、ばらの厚さが第7位、歩留基準値が第6位と高い能力を有し、肉量の改良への貢献が期待されます。

【現場後代検定成績】

(単位:kg、cm²、cm)

頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばらの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMSNo.	肉質等級(3等級以上)
去勢 6 頭	25.6	545.1	62.7	8.2	3.1	73.4	4.17	66.7% (4/6)
雌 10 頭	25.6	492.4	62.5	7.8	3.1	73.9	3.20	50.0% (5/10)

【産子の枝肉】



性別	去勢
枝重	620.3kg
ロース	59cm ²
ばら厚	8.8cm
BMSNo.	7
等級	A-4

形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	3.48
ロース芯面積	小さい							大きい	4.27
ばらの厚さ	薄い							厚い	2.69
皮下脂肪の厚さ	厚い							薄い	0.95
脂肪交雑	少ない							多い	1.54

標準化育種価 (SBV) とは？

各形質の育種価を同一スケール上で比較したもの。値が+1以上の場合、改良効果が高い。

畜産研究所 生産基礎技術研究室